

「扇尾虚無僧踊り」伝承活動の取組

1 学校名

日置市立扇尾小学校

2 学年・人数

小学4年生から6年生 (計5人)

中学1年生から3年生 (計6人)

高校1年生から3年生 (計4人)

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

午後7時～午後9時，扇尾地区公民館（5月）

(2) 発表の日時・場所

平成26年6月1日（日）せつぺとベイベント会場，

鬼丸神社他約20か所

午前6時30分～午後4時頃

平成26年11月16日（日）深固院祭り，深固院跡地

午前8時～午後2時頃

4 伝承・活動に取り組んでいる郷土芸能・伝統行事や史跡について

(1) 名称

扇尾虚無僧踊り（おうぎおこむそうおどり）

(2) 由来

明治初期に小吹与市，小吹勘太，下田平市兵衛，小吹市太等が中心となり五穀豊穰を祈願する踊りとして，鹿児島市の五ヶ別府に伝わる「虚無僧踊り」「肩落とし踊り」の2つを習得し伝承した。明治24年に新たに「六人絡ん踊り」も含まれるようになった。昔は，青年団に新しく入った数え年15歳の者で踊っていたが，現在は，小学生から踊るようになり，自治会を中心に中高生が小学生に踊りを教え，伝承に努めている。

(3) 構成等

3人一組で中央が虚無僧，両側が六尺棒で，この3人で棒を打ち合って踊る「虚無僧踊り」と六尺棒と三尺棒とが二列に並んで踊りはじめ，四人一組となって踊る「肩落とし踊り」，虚無僧は深編笠をかぶらず，三尺棒を持って中央に4人，両側に六尺棒が4人縦に並んで6人一組で踊る「六人絡ん踊り」の3種類で構成されている。

また，唄は8種類あり，唄者がその中から状況に応じて唄う。

5 保存会や地域との連携の具体

6月に行われる「せつぺとべ」の奉納に向けて，5月から地区公民館で練習を行う。扇尾自治会が中心となり，小・中・高校生に指導を行う。踊り子減少に伴い，本年度から，小学4年生以上の男女も入り練習を行っている。

練習には，地域住民が見守る中，保護者も一緒に参観したり，唄を唄ったりして，子ども会活動の一環として地域全体で虚無僧踊りを伝承している。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

学校と地域が一体となった伝統芸能伝承の取組の一つの活動として，扇尾自治会，扇尾地区公民館，扇尾地区子ども会と連携を図りながら伝承に努めてい

る。以前から、中学生，高校生も踊り子として踊り，地域の指導者と共に小学生に踊りの指導を行っている。また，総合的な学習の時間に郷土を学ぶ学習として取り上げ，由来や伝承について調べたり，踊りを教えていただいたりしている。

この活動は，日置市教育委員会の助成を受けて活動している。また，郷土芸能の継承活動の様子を学校だより等で保護者や地域住民に積極的に広報するなど，地域に残る郷土芸能の継承活動を生かした地域づくりの促進につなげている。

7 取組の様子（練習状況，発表の場等）



【地域公民館での練習風景】



【公民館，鬼丸神社，商店等での発表】



【高齢者福祉施設での発表】



【深固院まつりでの発表】

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

(1) 児童

虚無僧踊りの練習には，毎年取り組んでいる。今では，歌を聞くと自然に体が動き，練習を重ねるうちにみんなと息が合って踊れるようになり楽しくなってきた。

また，掛け声もしだいに大きくなり，踊りも大きく元気よくできるようになった。そして，地域の方々にも誉めてもらえてとっても嬉しかった。神社に奉納した時は緊張したけど，やって良かったなと思った。これからも，もっともっと上手になって，下級生にも伝えていきたい。

(2) 保護者

少子傾向にある中で女子も参加することができ，人数も確保することがで

きた。今後も、伝統芸能を絶やさず継承していきたい。

(3) 保存会

練習は夜間に実施しているが、保護者も踊りの指導に参加するなど、理解と協力が得られている。子どもたちは、練習するたびに上手になってきている。

これからも、郷土に伝わる虚無僧踊り等を通して、子どもたち一人一人が地域への誇りや愛着を育んでくれたらと願っている。

また、去年は自治会と小学校合同の秋季大運動会でも披露することができた。校区民の方々にも喜んでいただけたので、今後も継続していきたいと考える。